

令和3年第3回北海道議会定例会〔予算特別委員会・建設部所管〕開催状況

開催年月日 令和3年10月1日(金)  
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員  
 担当部課 建設部土木局道路課  
 建設部建設政策局維持管理防災課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>二 旧開発道路の見直しについて</b>                  次に、旧開発道路の見直しについて伺います。                  道道名寄遠別線の工事請負契約、30億2,852億円の締結に関する議案が今定例会に提案されています。名寄遠別線をはじめ旧開発道路の度重なる計画変更について、我が会派は幾度にもわたり問題点を指摘してきましたが、提案されている議案や事業等について以下質問します。</p> <p><b>(一) 名寄遠別線計画変更と予算の推移について</b>                  これまでの名寄遠別線の計画変更と予算増額の推移についてお示しください。</p> <p><b>(二) 名寄遠別線特定交付金の予算執行状況について</b>                  2019年度の3回目の計画変更で、全体事業費が131億円に膨れ、事業完成予定も2025年まで延長されました。                  名寄遠別線特定交付金の各年度予算執行状況について、今年度と過去5年間の推移、工事開始後からの合計額をそれぞれお示しください。</p> <p><b>(三) 予算執行増大の要因について</b>                  これまでの特定交付金各年度予算執行状況をみると、平成30年度の3億円に対し、今年度は14億円とおよそ4.5倍にも膨らんでいるが、要因は何か伺います。</p> <p><b>(四) 費用削減の検討と効果について</b>                  我が会派としてはこれまで事業見直しをはじめ費用対効果についても質してきました。費用削減の検討はこれまでどう行われ、どう実行され、効果をどう確認してきたのか伺います。</p> <p><b>(五) 富良野上川線の通行規制状況について</b>                  富良野上川線の通行規制について伺います。開通以来の通行止め日数と開通日数をそれぞれお示しください。</p> <p><b>(再質)</b>                  多額の費用をかけて建設しても実際には通行できる日数の方がはるかに少ない実態があります。                  名寄遠別線についても、同様の事態にならないという保証がどこにあるのか。客観的根拠を明らかにしてください。</p>	<p><b>○道路課長 泉 智夫</b>                  名寄遠別線の計画についてでございますが、本路線は、開発道路として国により整備が進められていましたが、道州制特区推進法の施行に伴い平成22年度に道へ移譲されました。                  移譲時点におきまして、完了予定が平成27年度、総事業費が約47億円でありましたが、その後の調査などにより、新たに土石流や地すべりの危険箇所が判明し、その対策が必要になりましたことから、平成26年度には完成予定を平成33年度、総事業費を約115億円に変更しまして、令和元年度には、現地掘削の結果、脆弱な土質が確認され、その対策が必要となりましたことなどから、完成予定を令和7年度、総事業費を約131億円と変更したところでございます。</p> <p><b>○道路課長 泉 智夫</b>                  予算の推移についてでございますが、過去5年間の事業費につきまして、平成28年度は約5億円、29年度は約4億円、30年度は約3億円、令和元年度は約7億円、昨年度は約9億円であり、今年度は当初予算で14億円となっております。                  また、道に移譲されてからの昨年度までの合計事業費は約57億円となっているところでございます。</p> <p><b>○道路課長 泉 智夫</b>                  予算の執行状況についてでございますが、未改良区間の約2.9km区間におきまして調査や用地処理が概ね完了した令和元年度以降、工事の本格化に伴いまして地すべり対策や橋梁などに着手し、計画的に事業を進めているところでございます。</p> <p><b>○道路課長 泉 智夫</b>                  コスト削減についてでございますが、道ではこれまで橋梁幅員の見直しや再生骨材を使用するなど、約5,000万円のコスト削減に取り組んでいるところでありまして、引き続き、経済的な工法を採用するなどコスト削減に努めてまいります。</p> <p><b>○管理担当課長 小川 京子</b>                  道道富良野上川線の通行規制状況についてでございますが、当該路線のうち、一部区間については地すべりの兆候があることから、安全と判断される期間を除き通行を規制しており、平成24年9月4日に供用開始して以降、本日、10月1日現在で通行止め日数は3,138日、通行が可能であった日数は177日となっているところでございます。</p> <p><b>○道路課長 泉 智夫</b>                  名寄遠別線の整備についてでございますが、当該事業区間におきましては、これまでの調査により土石流や地すべりの危険箇所等について確認されたことから、これらに必要な対策を講じながら整備を進めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>(六) 事業費用のさらなる増額について</b>  これまで3回の計画変更により完成工期は遅れ、費用負担は増額し続けています。予てより「早期完成」を口にしながらズルズルと長期化させ、道民負担を増大させてきた道の責任は重大です。  道が必要と言えば際限なく期間も費用も青天井では、道民は到底納得できるものではありません。今後、事業費用を一切増額させないという明確な意思表示が必要ではありませんか。伺います。</p> <p><b>(指摘)</b>  今後一切増額させないという明確な意思表示はされませんでした。工期の長期化と道民負担増という大きな問題です。知事に伺いたいと思いますので、お取りはからいください。</p>	<p><b>○土木局長 折谷 徳弘</b>  名寄遠別線の今後の整備についてでございますが、本路線は、留萌北部と上川北部の両地域におけます高次医療機関へのアクセス向上や物流の効率化、また、災害による孤立化の解消などを果たす重要な路線でございます。  道といたしましては、地域からの強い要望も踏まえ、今後とも、コストの縮減に努めながら早期の完成に向け事業を進めてまいります。</p>